

議長定例記者会見(第16回)会見録



日時：平成26年10月1（水）
午後3時～
場所：石川県議会議事堂
議長応接室

会見を行う吉崎議長(右)と米田副議長(左)

1 発表事項（吉崎議長）

9月定例会、知事提出案件の71億円ほどの補正予算、それから我々の懸案事項でありました県立中央病院の建て替えについては、6月定例会の追加補正で出てくるかと思いましたが、今日の公共事業単価について見直しがなされ、9月に債務負担行為ということで389億円という予算提示があり、いよいよ県民の医療制度の中で、県として中央病院の建設が動き出し、非常に関心の高いことだと思います。

71億円の補正についても、来年3月14日の北陸新幹線金沢開業について日の設定が確定し、四十数年来の県民の大きな関心事項が動き出しているということであり、波及効果も加賀や能登一円にでる施策が大きく盛り込まれていることだろうと思います。一方で、国による国土強靱化の施策の中でもありますし、さまざまな災害が国全体で多発し、県内でも梅雨時期の集中豪雨による水害が発生していることから、国の国土強靱化対策の中での災害対策の対応が補正に盛り込まれ提案されておりました。ただ、国のほうで総務省あたりから出ています国土強靱化法が来年度予算では、地方の強靱化対策をきちんとしたもので立案してもらえないか。国一辺倒の枠ではなく、それぞれの地域に応じた強靱化対策の立案をしてほしいということで、来年度予算の配分を重点的に認めていこうという動きがありますので、議会としても執行部に提案をさせていただきます。

そういうことで大きな懸案事項は、新幹線金沢開業、その波及効果、災害対策に強い県土づくり、それから病院建設もいよいよ動き出しており、議会でもそうしたことが代表質問、一般質問、予算委員会などで議論・提案がされてきているのだろうと思っています。

○ 新アンテナショップ「いしかわ百万石物語・江戸本店」の開店について

アンテナショップについて、いしかわ百万石物語江戸本店には、私も9月16日に内閣総理大臣との全国議長会懇談会があった際、お店の前を通らせていただきました。その時はようやく工事用のネットが外されたところでありまして、今日まで2週間がたち、さらには1週間後10月8日にはオープンすることです。当時、内装はまだまだ出来上がっておらず、2階の照明がようやくついたところでした。本当に10月8日にオープンできるのであろうかという進捗状況で、心配しながら前を通った覚えがあります。石川県を発信する大事なアンテナショップでありますし、都会の方にアンテナショップを通じながら2時間半でこの金沢まで結ばれ、加賀、能登地域へお越しいただける仕組みのアンテナとしてこれからの働きを期待申し上げたいと思います。

その一環の中ではありますが、NHK朝の連続ドラマ小説「まれ」がいよいよ放映されます。石川の大事な食文化の中でもお菓子の文化が放映されるということで、石川県の魅力を全国に発信する起爆剤になるだろうと期待をしていますし、これからの励みになると思っています。

○ 子ども医療費助成制度について

我々自民会派の中でも、子ども医療費助成について議論があったと思います。我々も一日も早く現物支給の方式にならないかということをお願いとして提出していたところですが、いよいよ、償還払いから現物支給の方向へと検討する糸口が見えてきたと思います。

○ 県立中央病院の建て替えについて

県立中央病院についても、当初480億円余りでしたが、50億円ほど圧縮されてきているところです。これによって、医療器具等にも影響があるのではないかと心配していたところではありますが、結果、外壁などのハード面の変更で対応するというところでほっと一安心しているところでございます。自民会派の我々として、防災ヘリ対応も重要ですが、一日も早くドクターヘリの対応も動き出していければいいと思いますし、中央病院にはヘリの離発着できる場所もございますから、これからの課題になっていくと思います。

冒頭申し上げましたように、8月に広島で集中豪雨での災害が起きたことは、他人ごとではなく、石川県でもゲリラ豪雨での土砂災害や水害が起こる危険性がありますから、しっかり点検もしていただきたいと思います。

○ 御嶽山の噴火について

先日の御嶽山の噴火についても、他人ごとではなく、白山も活火山であり、活動を常に起こしている全国で47火山の一つでもあります。白山について危機管理監に尋ねてもそのような兆候はないということですが、御嶽山の場合、兆候の予知ができていない中での出来事でありましたので、対応について国、気象庁と連携を密にされながら対応していただきたい、予知兆候について情報発信できるようにしていただきたいと思います。水蒸気爆発ということでしたが、シェルター対応について県として考えていかなければいけないと思いますし、私の地元であります、火山灰に雨が混ざると2次被害が起こってしまいます。これからの災害対策の一環として進めていくことが大切であろうと思います。

○ 人口減少問題について

人口減少問題についてであります。今定例会においてもいろいろと議論がなされております。国のほうでも内閣改造として地方創生大臣が就任なされております。国では、「まち・ひと・しごと創生本部」として対応していると説明がされていますが、私の考えでは、まちがあって、人がいて、仕事があるのではなく、仕事があってはじめて人の生業が成り立つし、定住するわけでございますし、まちの元気がでると。国の発想は全く逆ではないかな、私は「しごと・ひと・まち創生本部」であるべきではないかなと思っておりますけれども、言葉の綾であろうと思います。東京一極集中の中での景気浮揚対策であります、地方はまだ肌身に感じられないところです。

地方も経済効果、波及効果があるよう国の施策について全国議長会でも提案させていただいておりますし、このことは議会の代表として申し入れをしていかなければならないと思っております。

○ 危険ドラッグ条例について

危険ドラッグについて、国へ意見書として提出させていただいておりますが、県のほうでも議会と同じような形の中で、知事、執行部が早急に対応されたということです。七尾で危険ドラッグの製造工場が摘発されたことに起因するのだろうと見ておりますけれども、早速に、警察もこうした吸引をされた方への免許停止処分案の具体的な罰則規程が発表されたともお聞きしております。しっかりと罰則規程の効果が十分に発揮できる対応が求められてくるのではないかと思います。

○ 意見書について

意見書の可決についてです。半島振興法について、全国議長会の中では石川県が半島振興法の議連の会長と位置づけられておりますし、知事会では和歌山県知事がそれぞれなられております。稲村国土庁長官時代に制度化され、これで3度目の改正に向かっております。先般、全国議長会代表として、各政党の代表にお集まりいただき、3月末で切れる半島振興法の継続についてそれぞれ要望してきております。たくさん国の政党はございますが、反対する政党は全くありませんで、中身についてもう少し検討すべきという意見を持たれる政党がありました。一番の趣旨は若い方が定住できる仕組みを盛り込んだ半島振興法として来春3月末の成立に向けて動き出せばよいのではないかという声が大きかったです。

我々石川県としても、能登の人口減少対策として、この半島振興法の中で、若い方が能登に定住できる国の施策について、これからもしっかり提言していかなければならないと考えています。

○ 議員辞職について

私も議長という立場で、開会前に下沢議員さん、石坂議員さんが議員辞職をされまして、会期中には山田憲昭議員さんが議員辞職をされたということで、議会人として仲間が減るということは、非常に寂しい思いをしましたが、それぞれ政治家として新たなステージを求められての判断、対応であるということで、それぞれこれまでの経験を生かして新たなステージの中で思いを託して頑張っていたいただきたいという思いを持っています。今、金沢市長選挙が執り行われていますが、結果はどういう形であれ、頑張っていたきたい。白山市長選挙もございますし、これ以上話すともスコミの皆さんに誤解を招くといけません。県政で培ってきた政治に対する思いをそれぞれの市でしっかり発揮してご活躍されることを期待したいと思っています。

もう一点、北村茂男衆議院議員が環境副大臣に就任されました。これも、これからの大きな課題の中でも、ぜひ北村副大臣にはご活躍を期待申し上げたいと思っています。

○ ふれあい親子県議会教室について

その他として、開かれた県議会、議会の改革も大事であります。今年8月に広報公聴会議で、「ふれあい親子県議会教室」が開催されました。静岡県では10年近く開催しておりますが、静岡を現地視察し見聞した以上に本県の子供さんたちは、はきはきとしていて、問題視点の捉え方、本会議場での取りまとめを発表する姿勢を見ておりますと、数段に本県の子供さんの目線が政治に対してもきちんと発言されていたと思います。

広報公聴会議のメンバーも県議会としてこの教室は実のある教室だったと、そして来

年度も推し進めていかなければならないだろうという感想を聞いております。議長としても、開かれた県議会、議会改革の一環として、親子教室をぜひまた推し進めていただければと思っています。

もう一点、新幹線絡みで、先日9月28日、日曜日に金沢駅でカウントダウンボードの除幕式がございましたが、来週7日に県庁舎においても新幹線金沢開業に向けてのカウントダウンボードの除幕式がありますので、大事な課題の一つの行事ですので、議長としてしっかりと対応していかなければならないと思います。

不足した部分については、副議長からもお話があるかと思っておりますので、また記者諸君からご質問をいただければと思います。

私からは以上であります。

副議長さん、どうぞ。

2 質疑応答

米田副議長

知事の取材のときの話と多少違っていましたか。

記者（各社）

……………。

吉崎議長

知事は執行部ですから、二元代表制といえどもわれわれ県民から選ばれた者として知事の執行体制を監視し提言していかなければならないし、少しステージが違うので議会として言うべきことはしっかりと行っていきたいと思います。

ただ、県民にとってプラスになることは、我々は賛同、支援していかなければならないということであろうと。

米田副議長

御嶽山の噴火で、白山市の人が不明であるということですが、私は今議会中だったため、情報を掴んでいないのですが、何かそういう情報が入っていますか。

記者

まだ、入ってないです。

吉崎議長

私も聞いているのだけど、多分、松任の方ではないかということまでしか、固有名詞についてはまだ分からない状況。「お前は松任にいるのに、なぜ情報が入らないのか」とある人に言われたけれども、まだ情報が入っていない。

記者

車が見つかっただけで、登ったかどうか分からない・・・。

吉崎議長

私は御嶽山には3度ほど登ったことがあって、三千メートルは超えており、噴火するようには思えないし、景色がよいところだったが。

記者

3回くらい登られたのですか。

吉崎議長

はい。ずっとね、穂高岳から槍ヶ岳など、あちこち。

さて、いよいよ新幹線開業ということで、能登は能登として観光客にきてほしいし、加賀は加賀で、東海北陸道、能越道ができて中部圏とのつながりが能登は強くなるけれども加賀は風化するのではと、加賀は7年も待たなければ新幹線が通らないという議員各位の思いもあります。加賀地区は製造業が多くある中で、知事も川北のほうの加賀海浜産業道路の橋梁の事業着手について明言されておりますので、ここはしっかりと加賀地域の産業基盤の大きな動脈を作ることも大事なことだと思います。今回の議論の中で、小松白川道について賛成、反対の方がおいでて、いろんな意見がありますが、議長としては一日も早く国の事業として採択していただくようお願いしていかなければならないと思います。

中部縦貫道は、福井のほうは岐阜との境まで、私も先般通ってきましたが、かなり事業は進んでいました。しかし、岐阜から長野に抜けるところはまだまだだろうと思います。岐阜の洞口議長は古川市出身で、古川市から東京に行こうとすると東海道新幹線に乗るために2時間、それからさらに2時間、計4時間以上かかってしまいますので、普通は富山空港から飛行機で東京へ行かれるそうです。「石川県はいいなあ、すぐに東京に行けていいなあ」と。「岐阜といえども非常に遠い。孤立したところだから、一日も早く小松白川道の立ち上げを我々も要望したい。」とおっしゃっていました。洞窟の「どう」に口の「くち」で「ほらぐち」という、覚えやすい名前で陽気な議長さんです。古川市も良いまちですが、若い人が少なく仕事がない、人口減少の対応が懸念されていました。小松白川道ができれば小松空港により近くなり、なんとかお互い協力してやりたいという言葉をいただいています。

福井県は、我々が米原ルートを言うと知事選挙があるので、終わるまでは声のトーンを抑えてくれないかという要望もあつたりするわけですが、我々は議会議員として、一日も早く関西、大阪へ抜けるルートを提案していきたいと思っています。小松空港のこともありますので、福井への配慮も当然していかなければならないが、譲り合うことは譲り合いながらも、しかし、言うべきことはきちっと福井の議長さん方や西川知事に申し上げていきたいなと思っています。

新幹線開業で富山の高平議長さんは、「羽田便は立ち行かなくなるのでは、小松さん

はまだ良いが、富山の空港は悲惨なことになる。」とかなり深刻に富山空港の維持継続の心配をされています。そうしたことを相談しながらも、北陸圏として議会議長として、どうした形が良いのか議論を深めていくことが必要ではないか。来年3月から2時間圏で新幹線が来ることになり、小松は2時間半で分岐点であるが、富山は2時間4分で結ばれると、ほとんどが新幹線を選び羽田便を選ぶ方がいなくなり、富山空港の今度の運営が厳しい状況になると話されています。そこは全体として聞くところは聞いて、石川県の議長も相談に乗ってほしいという話もあるが、聞くことは聞くし、港の件については譲れないところは譲れないし、交換条件はいろいろあるだろうと思います。

記者

白山の火山の関係について、県議会としてシェルターのお話もされましたけれども、あらためて今後どう対応していくのかということと、協議会として岐阜と福井が関わっているかと思いますが、そういうところとの連携は何か考えておられますか。

吉崎議長

当然、福井、岐阜、石川県が関わっているし、白山市もそうした形での広域連携をやられております。そこは県としてもしっかりとこれからは棗危機管理監には対応を申し入れていかなければならない。金沢の平松准教授の言うように県が動いてくれないという歯がゆさが少しあります。ここはもう少し議会としても意見を申し上げていかなければいけないと思っています。シェルターについてもどういう形で対応ができるか。今度の御嶽山でもシェルターがもう少し整備されていれば、あそこまでにならなかつたのではないかという話もある。ただ気象庁の火山の調査でもそこまでの予知がなかなか難しい。水蒸気爆発の予知はまだまだできていないということでもありますので、白山の場合でも1630年くらいに噴火があり、白山火山は350年から400年前後で噴火を繰り返している経緯があります。今、あれから380年くらい経過しているので、いつ起きても不思議でないという状況下にあるのだろうということです。東日本大震災や南海トラフなど、最近の地球の表面が動いている現象を考えてみたときに、白山といえども対応をしっかりとっておかないと、まさかということになりかねないですから、危機管理として先取りをしながら対応をしていかなければいけない。

特にあそこには手取川ダムという大きなダムがあり、土石流でダムが決壊したときの下流域への影響は非常に大きいものがありますので、県民の水がめでもあるし、またそういうことがあってはいかんわけですから、やはり危機管理の対応が大事ではないか。議会としても、しっかりと物申していかなければいかんだろうし、県だけではなく、国のほうへもしっかりと連携をとっていかないと対応できない話であると考えています。